



竹田市

バンク事業を活用して白ねぎの生産拡大を実現

「取組のポイント」

- 農地バンクは、耕作者の営農開始まで中間保有し、荒廃化を防止
- 流通事業者の法人設立を支援し、法人がまとまった農地で経営をスタート

地区の概要

中角辻原地区は、標高400mの中山間地域で飼料作物などを生産する地区である。近年は、畜産農家が飼料作物を生産しているが、農家の高齢化に伴う離農で周辺の農地が荒廃化（一部は林地化）するなど、今後の農地の維持・管理に不安を抱えている。

取組の内容

- ① 県は、令和4年度、白ねぎの産地拡大を目的に「ねぎ産出額100億円プロジェクト」（県振興局や市役所、農協で組織した白ネギ推進会議）を発足。農地バンクは、白ねぎの栽培面積が拡大している豊後大野市や竹田市において中間保有機能（最長2年の保全管理）を発揮して支援。
- ② 具体的には、普及員が巡回時に、受け手の栽培地域や面積の希望を把握し、農地バンク（機構駐在員）が出し手と調整。受け手の準備期間中は農地バンクが中間保有し、適切に保全管理（令和4・5年度：約65ha（県全域））。その後、受け手は、自分のタイミングで農地を借り受けて営農をスタートできる等、バンク事業を最大限に活用して支援。
- ③ また、大分県は、参入に意欲的な異業種をターゲットに相談窓口の設置やセミナー等を開催。中角辻原地区では、地区内で受け手が見つからなかったことから、流通事業者（県内）と調整を開始。事業者は現地法人を設立し、まとまった5haの農地をバンク事業で借り受けて経営をスタート。その後も経営規模を2.5ha拡大。

取組の成果

- 農地バンクは受け手が営農を開始するまでの間、適切に中間保有（令和4年度：7.1ha）
- 農地バンクとして相談窓口やセミナーを開催し、農外からの参入を促進
- 設立された法人をサポートし、地区内の約4割（7.5ha）をまとまった形で借り受けてスムーズに経営をスタート

農地中間管理事業で集積した農地

【ほ場全体図】



中角辻原地区に参入した県内企業の営農概況

品目	R5年度実績			R6年度計画		
	規模 (a)	出荷量 (t)	産出額 (百万円)	規模 (a)	出荷量 (t)	産出額 (百万円)
白ねぎ	500	115	40	600	150	50

【作業従事者（代表者除く）】

・常時雇用2名 ・パート従業員2名 ・技能実習生3名 ・派遣社員3名

・栽培面積10ha（連作障害回避用の輪作ほ場を除く）への拡大に向けた農地確保が課題